

被爆体験や平和への想いを伝える

被爆者、被爆体験伝承者、家族・交流証言者、 被爆体験記朗読ボランティア を全国に無料で派遣します

～被爆体験伝承者等派遣事業～

令和3年度派遣

平和祈念像（長崎）

原爆ドーム（広島）

戦後75年が経過し、唯一の戦争被爆国として、被爆者の体験や平和への想いを次世代に語り継いでいくことがますます重要となっています。このため、厚生労働省と広島市、長崎市が協力し、被爆者、被爆体験伝承者、家族・交流証言者及び被爆体験記朗読ボランティアを全国に無料で派遣し、被爆の実相、平和への想いを伝えます。

◆被爆者（広島・長崎）

被爆者ご本人が、自身の被爆体験や平和への思いをお話します。

※同一年度内に広島・長崎市内で聴講する団体、修学旅行の事前学習は対象外とし、聴講者数は概ね40名以上とします。

※広島からの被爆者の派遣は、12月から翌年3月までの間に限ります。

※長崎からの被爆者の派遣は、職員1名（費用は申込者負担）が随行します。

◆被爆体験伝承者（広島） 家族・交流証言者（長崎）

広島市、長崎市が養成した被爆体験の伝承者等が、プレゼンテーションソフトなどを用いて被爆者から直接受け継いだ被爆体験や平和への思いをお話します。

◆被爆体験記朗読ボランティア（広島・長崎）

国立原爆死没者追悼平和祈念館が募った朗読ボランティアが、被爆者が自ら綴った体験記や詩などを朗読します。聴講者による朗読体験なども行います。

■講話・朗読会の標準開催時間 広島：60分・長崎：40分

申し込み＆問い合わせ先

◆申込期限は、原則として派遣希望月の3カ月前の月の月末まで

（ただし、派遣希望月が4月の場合は2月末まで）

（例）7/31 派遣希望の場合の〆切 ⇒ 4/30 ※申込期限に間に合わない場合は、電話でご相談ください。

◆派遣希望時期の新型コロナウイルスの感染状況によっては中止とさせていただく場合がありますことを予めご了承ください。

◆申込方法は、原爆死没者追悼平和祈念館のホームページでご確認ください。

令和3年度
派遣申込

2/1（月）
受付開始

派遣元	希望する派遣者	申し込み・問い合わせ先
広島	被爆者	●国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 TEL 082-207-1202 FAX 082-543-6273 ホームページ https://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/ e-mail haken@hiro-tsuitokinenkan.go.jp
	被爆体験伝承者	
	被爆体験記朗読ボランティア	
長崎	被爆者	●国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 TEL 095-814-0055 FAX 095-814-0056 ホームページ https://www.peace-nagasaki.go.jp/ e-mail haken@peace-nagasaki.go.jp
	家族・交流証言者	
	被爆体験記朗読ボランティア	

申し込みから開催までの流れ

～被爆体験伝承者等派遣事業～

- ① 申し込みの受付 令和3年2月1日～ 申込期限：原則希望月の3カ月前の月の月末まで
(例：7/31 派遣希望の場合のメ切 ⇒ 4/30)
- ② 派遣の可否の連絡 申込書受付後、20日以内に連絡します。
- ③ 派遣者名等の派遣内容の連絡 開催日の1カ月から2週間前までに連絡します。
- ④ 派遣者と電話等で打ち合わせ 派遣者と開催内容等の確認を行ってください。
- ⑤ 会場への派遣、開催 会場設営、必要機器等の準備を行ってください。

※申し込みの際の注意事項

- 派遣対象 学校、自治体、その他の団体が主催し、平和に関して学ぶ目的で行う平和学習等とします。ただし、政治・宗教・営利を目的とする集会等は除きます。
- 聴講者数 概ね20名以上（被爆者ご本人の講話は40名以上）が聴講する平和学習等に派遣します。ただし、これを下回る場合においても状況に応じて派遣します。
- 実施回数 申し込みは1団体1回のみ（1年度内）、講話もしくは朗読会のいずれかのみとします。なお、広島、長崎両方への申し込みはできません。

※必要機器等（プレゼンテーションソフトを使用できるパソコン、机、マイク及びマイクスタンド等）は申込者に準備していただきます。また、会場借上料などの必要経費は申込者の負担となります。

令和2年度に寄せられた感想（抜粋）

広島からの派遣

○被爆体験証言講話【熊本県菊池女子高等学校】令和2年12月8日

被爆当時の少女の視点で事実を淡々と語られ、広島の悲惨な状況が目につかぶようでした。平和への想い、若い世代への想いが被爆体験者のことばとして直接心に響きました。

○被爆体験伝承講話【静岡県袋井市立浅羽中学校】令和2年11月27日

体験を基にした貴重な話を聞いたことは、資料を読むだけより現実味があり、生徒一人一人の心に語りかける内容でした。これからの世界を生きていく一人の人間として、平和な世界を作っていくことが大切であると考えきっかけとなりました。

○被爆体験記朗読会【滋賀県東近江市立愛東北小学校】令和2年11月21日

戦争を知らない子どもたちが、映像や詩の朗読を通して、「戦争がいかに悲惨なものか」や「大切な家族を失った悲しみ、苦しみ」を知る貴重な機会になりました。また、大人にとっても平和学習は必要なものであると痛感しました。

長崎からの派遣

○被爆体験講話【長崎県雲仙市立千々石中学校】令和2年12月4日

声がハキハキされていたので、とても聞き取りやすかったです。中学生にとって難しい語を使われなかったので理解しやすく、思いが伝わってくる内容で生徒たちが学習した内容とつながりがありました。

○家族・交流証言講話【埼玉県立鴻巣女子高等学校】令和2年9月10日

紙芝居やパワーポイントを使用して下さり、とてもはっきりとわかりやすく聞き取りやすい話し方でした。お父様の被爆体験を語っていただき、家族を奪い一瞬で全てを破壊してしまう原爆の恐ろしさは人生を狂わせるものであると改めて痛感しました。講話でお聞きした内容は教科書や書物で感じる事ができない、平和の大切さが直に心響くものでした。

○被爆体験記朗読会【長崎県時津町立時津東小学校】令和2年6月25日

児童の実態に応じて、プログラムの構成を考えていただき、当時の暮らしや原爆のことを考えることができました。やさしく語りかけてくださる口調が心地よく、低・中・高学年のそれぞれに言葉を選んだり、話す速さを変えてくださり児童は話にひきこまれていました。

